

『管理栄養士の国家試験に一言申し上げたい（その2）：試験問題自体にも問題があるのでは？』

2025 年度が始まりました。新たな気持ちでがんばろう！です。

4 月は、どこへも出かけることなく過ぎました。県外というか、兵庫県と大阪府、家、東宝塚さとう病院、大学、以外には行っていないという意味です。4 月 26 日から 5 月 6 日はゴールデンウィークです。29 日の昭和の日は講義。その代わり、30 日、5 月 1 日、2 日が休みで、結局、4 月 30 日から 5 月 6 日までのゴールデンウィークは 7 連休。しかし、どこへも行かなく、大学や家で過ごす、これが私の Golden Week の過ごし方です。

今回は、大学の話題ばかりです。コロナ以来かもしれませんが、臨床栄養の盛り上がりがなくなったからかもしれませんが、講演に出かけることも少なくなっていまい、このゼン先生の栄養管理講座のネタや写真にも困っているのですが、まあ、これは、年齢的にも私の活動が右肩下がりになるのは当然のことでもあります。

それでは、千里金蘭大学関連のネタです。

4 月 1 日には千里金蘭大学栄養学部の第 1 回教授会。新しく入ってこられた教官の紹介などがありました。学部長の交代もありました。翌 2 日は入学式。私も今回で 3 回目になりますが、私は気楽なもの。壇上での入学式の写真を撮っていました。式の後には各学部に分かれて事務手続きをしていましたが、私は見てただけ。その後、入学式が執り行われた佐藤記念講堂のステージ上で栄養学部新生と共に記念撮影。ステージの緞帳の後ろで並んで撮影の準備が完了していましたが、なかなか撮らない。なぜ？忙しいんだから早く撮ってよ、と思っていたら、緞帳が上がる。何のために撮影を待っていたのか？写真屋さんが記念写真を撮る時、ご父兄も撮れるようにする、だから、待っていたのです。ふうふううん、という感じでした。学生にとっては晴れの日ですから。

翌日の午前中は新生に対して栄養学部のスタッフの紹介があったとのこと。私は東宝塚さとう病院の外科外来なので出席できませんでした。午後から健康診断がありました。今年は高音難聴とは言われませんでした。16 時頃からクラス会。1 年生から 4 年生まで、数人ずつの縦割りクラスがあるのです。私はどこにも所属していませんが、クラス会だけ参加。ケーキなどを食べながら、2 年生、3 年生、4 年生が 1 年生にいろいろ大学のことを教える、そんな目的だそうです。この講義はどうのこの、こういう活動もありますよ、ということでしょうか。私は、初めて、このクラス会というものに参加するように言われたので、役に立たない教授なので、チョコレートを差し入れしました。

4 月 7 日から大学の講義が始まりました。前期は、月曜日に臨床医学Ⅰ、金曜日に臨床栄養学Ⅱの講義、そしてスポーツ的な講義があります。あとは卒業研究ゼミ。ゼミ生としては二人を受け入れたのですが、どうなることやら、という感じです。

第 1 回の臨床医学Ⅰの講義。どういう準備をして、どういう感じで講義室に入り、学生の雰囲気予想しながら第 1 声はこんな感



↑ 令和 7 年度、千里金蘭大学の入学式です。栄養学部の学部長は石川先生になりました。金蘭会の理事長、副理事長も新しく赴任されました。大学の改革が始まるようです。お二人とも学校経営のプロフェッショナル。全国的に女子大の経営は大変なことになっていますので、私は、お二人の手腕に期待しています。



↑ 入学式に来られた新生とご父兄のみなさんです。「千里金蘭大学入学式」との看板が入口にあるので、そこで立ち止まって記念写真を撮っておられるのでしょう。



↑ 4 月 20 日にはオープンキャンパス。私は毎回出席です。ガチャポンもあるのです。その横に、経腸栄養や静脈栄養の器材を並べました。変かなあ。



↑ 森永乳業クリニコさんに提供していただいた、クリミール、エンジョイゼリー、ビタミンサポートゼリー。オープンキャンパスに参加していただいた生徒さんとご父兄に試飲・試食をしていただきました。みなさん、恐る恐るでしたが、食べてみると「おいしい！」でした。全員の評価です。大学のアドミッションセンターが、これを毎回のオープンキャンパスでやってくれと言っています。ということは、私、毎回、オープンキャンパスに出席して営業活動をしなければならないのです。仕方ないか、大学のためだから。

じでしゃべろう、と計画していたのです。しかし、昨年までと同じ講義室 3713 に行くと、学生がいない。学生達は廊下でうろうろしている。この学生達は何を待っているの？私、この学年の学生は知らない。しかし、臨床医学Ⅰの講義を待っているのかと問うと、そうだとのこと。ここが講義室だと言うと、違うんです、隣の部屋 3714 に指定されているんです、でも、その部屋は教科書販売中。どうするんですか？なに！どういふことや！教学センターに電話して文句を言う。隣の建物に移動してください。馬鹿言うな。そんなことできるか。この 3713 の部屋は空いとるやないか。いや、そこは別の講義があるんです。今は空いとる。たまたまです。わしの講義室を変更するなんて、わしは聞いとらん。この部屋 3713 で講義ができるようにしてもらわんと困る、とごり押し。結局、3713 講義室で講義をすることにしたのです。さらに、金曜日の臨床栄養学Ⅱの講義室も変更になっていた、それもダメだ、3713 で講義ができるようにしてくれんと困る。ということで、臨床医学Ⅰも臨床栄養学Ⅱも、昨年と同じ講義室で講義をすることになりました。ごり押し？ではありません。当然のことをやるようにしただけです。なぜ、こんなことになったのか？わかりません。

講義の雰囲気？静かに聞いてくれています、井上教授は怖い！からかもしれません。居眠りする？スマホで遊ぶ・何かをする？別の勉強をする？なのかもしれません。定かではない！しかし、真面目に受講している学生の邪魔はしないようしてもらえないと困る、と思っています。当然ですが、静かなだけでもよし、としなければなりません。いろいろ工夫して講義スライドを作っています。講義の前振りにも力を入れているのですが、興味を持ってくれている学生はどれだけのいるだろう、という感じ。臨床医学Ⅰは北海道の稚内から南へ、臨床栄養学Ⅱは石垣島から北へ、私が撮った写真などを紹介させていただき、1年間の講義の終わりには大阪へ戻る、と計画しています。写真整理にも時間がかかります。学生達は、余計な話は不要、1秒でも早く講義を終わらせて欲しい、のかもかもしれませんが。かつては、海外の写真も見せていたのですが、あまり興味を持ってくれなかったのをやめました。日本各地の写真に興味がある？ないかもしれません。多分、私の自己満足に過ぎないでしょう。講義に興味を持って欲しいという、年若い教授の小さな工夫と、ご理解いただきたいのですけど。しかし、私の講義を聞いて、JR 網走駅の縦看板を見に行ってくれた学生、栄養寺に参拝に行ってくれた学生がいるのです。うれしい！



↑ 教育学部の伊原木先生はプロの音楽家。あちこちでコンサートもしておられるとのこと。オープンキャンパスでその「声」を聞かせていただきました。こんな有名な先生がいることを、教育学部の学生集めのために、なぜ、もっと広報しないのだろう、と思いました。すばらしいお声、お歌、でした。



↑ 栄養学部の小林先生の大学・学部紹介の講義です。「入学してから、料理がどんどんできるようになる」「食・栄養を学ぶことで人をしあわせにすることができる！」その通りです。いいお話でした。



↑ オープンキャンパスの雰囲気です。先生達がブルーの栄養学部のユニフォームで大学の説明、勧誘をしています。3年目になって、私も、やっとブルーのユニフォームをいただきました。やっと、栄養学部の仲間として認めていただけたのでしょうか。

このポスターは前回は掲載しましたね。まあ、広報活動ですから、何度でも、貼り変えるのがめんどくさいので、このパネルは、そのまま、部屋に置いています。病院で働く管理栄養士になりませんか？隣のポスターは「栄養教諭になりませんか？」です。いろいろ、高校生を千里金蘭大学に勧誘するためにがんばっています。この私が・・・。



ゼン先生：4月は、世界中がトランプ関税で大変でした。

小越先生：トランプ関税か。オレは馬鹿なことをしていると思っているんだけど。

ゼン先生：もちろん、私もです。中国との関税戦争は、ばかばかしいけど、なんとなく、中国がんばれ、そんな気持ちになっています。

小越先生：逆に、中国に利があるんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれません。ちょっとトランプが弱気になっているような雰囲気もあります。やり過ぎですよ。何を考えているのか、理解不能です。

小越先生：メキシコ湾をアメリカ湾に名称を変更するとか、カナダを USA の 51 番目の州にするとか、グリーンランドを買収するとか、信じられないことをしている。日本の自動車に関するボーリングボール発言はばかばかしい。

ゼン先生：ハーバード大学などの大学への補助金を止めるとかで、いろんな大学が怒っています。

小越先生：そりゃそうだろう。いろいろ、やってはいけないことをやっている。

ゼン先生：ウクライナ問題も、一気に解決すると動いているけど、トランプの思うようになるはずがないですよ。

小越先生：その通りだ。世界の王様ではない。トランプがすべてを決めるのではないんだからな。誤解している。

ゼン先生：各国がアメリカを嫌いになっているんじゃないでしょうか。カナダはアメリカに旅行にも行かなくなっているそうですし、アメリカ製品の不買運動も起こっているようです。

小越先生：オレもそうなって当然だと思う。しかし、この話は終わらないな。

ゼン先生：本当に。終わりません。現在進行形の話題ですから。

小越先生：そうそう、大谷選手がパパになったんだってな。

ゼン先生：ここで取り上げる話題ではないでしょう。

小越先生：しかし、テレビなんかの報道はすごいだろう？

ゼン先生：大谷選手は出過ぎだという話もありますよ。

小越先生：別に、大谷選手に責任があるんじゃないんだから、いいじゃないか。明るい話題なんだから。

ゼン先生：しかしですね、日本のプロ野球も始まったのに、NHK のスポーツニュースも「まずは大リーグから」です。日本のプロ野球についてきちんと報道して、時間があれば大リーグ、でいいと思います。ドジャーズの勝率なんか、報道する必要はありませんよ。

小越先生：君の言いたいこともわからないことはないけど、それを知りたい日本人が多くなっているから NHK がそうしているんだろう。わかったよ、日本の、身近な話題に戻ろう。

ゼン先生：そうですね。しかし、はっきり言うと、話題にしたいネタがありません。4月は、自分の通勤範囲内しか移動しませんでしたから。研究会や学会、講演会で出かけることもありませんでした。



↑ 千里金蘭大学栄養学部には海外研修もあります。ニュージーランドと韓国釜山への研修旅行をしています。今年の釜山研修旅行の担当は渡辺先生。行きませんか？と誘われましたが、お断りしました。私、もう、海外は行きたくない、しんどい、興味もない。国内で十分。温泉がいい！中村先生は食品ロス問題に力を入れています。



↑ 4月21日には「100円食堂」という企画がありました。3人の先生（中村先生、八木先生、徳永先生）と学生が集まって、サンドイッチなどを作って、一緒に食べよう、という企画だと思います（実は、よくわかっていないのです）。私は、食べるためだけに参加。もちろん、料理をする能力はありませんから。しかし、たくさん食べさせてもらって100円しか払わないのは申し訳ないので、料理をしてくださったみなさんに「アイスクリーム」を差し入れました。



↑ 大量の料理が出ました。サンドイッチをこんなにたくさん食べたことあったかなあ。もちろん、家での晩飯は食べられません。ごちそうさま、でした。おいしい食事でした。

小越先生：そうか、地元でおとなしくしていたんだな。でも、花見には行ったんじゃないか？

ゼン先生：いいえ、特別に花見に行く必要はないんです。近所に桜はたくさんありますから。

小越先生：近所で見える桜も花見だろう。

ゼン先生：そうですね。かつて、上野公園の桜や、函館五稜郭の桜を見たことがあります。タイミングが良かったんです。

小越先生：講演に行って、ということだな。

ゼン先生：かつてはいろいろな所へ講演に呼んでいただいて、いろいろ観光もさせていただきました。もう、あんなことはないでしょう。

小越先生：そうか。君ももう古希だからな。そういうもんだよ。しかし、いろいろ講演のネタは持っているのに、なあ。

ゼン先生：ネタはいくらでもあります。

小越先生：君のネタは、もう、時代が求めているネタじゃないんだよ。静脈栄養、経腸栄養、カテーテル管理、そんなネタじゃなあ。今、求められているのは、経口摂取関連だからな。

ゼン先生：そうですね。その通りです。私の講演のネタは、ほとんど、食べられない人の栄養管理関連ですから。

小越先生：食べられない人の栄養管理。大事なことだし、もともと、オレ達が栄養管理は大事だと思って活動を開始したのは、食べられない患者の栄養管理をなんとかしたい、と思っているのにとだったのに、なあ。

ゼン先生：私は融通の利かない人間なので、先生達の考えをそのまま維持しているだけ、なのでしょう。

小越先生：ははは、そうなんだろう。そういえば、オレ達の最初の頃は PEG はなかったぞ。

ゼン先生：PEG ですか。PEG パッシングが起こってから、もう 15 年になりますが、PEG は相変わらず下火、それに伴って経腸栄養も下火、と言っていると思います。

小越先生：経腸栄養剤や濃厚流動食を飲ませるほうが優先で、そのための摂食嚥下訓練が盛んなんだな。

ゼン先生：そうです。その訓練中に胃瘻で経腸栄養をして栄養状態を保つ、これが大事なんです、訓練をがんばらないと胃瘻を造設しますよ、と脅したり、それもあるようです。

小越先生：静脈栄養はどうなんだ？

ゼン先生：TPN はキット製品が充実しているから勉強しなくてもやれる、と思っている人がほとんどです。だから、勉強しなくてもいいんです。

小越先生：PICC という新しい手技があるじゃないか。

ゼン先生：挿入技術にしか興味がないんです。管理には興味がないようです。感染予防には投与する輸液が大事なんです。

小越先生：ダメだな、それじゃあ。どうしようもないか。

ゼン先生：そうですね。そういうことも考えて、病院で働く管理栄養士のレベルアップというか、静脈栄養も経腸栄養も理解している管理栄養士を育てたいと思っているんですけど。

小越先生：けど？

ゼン先生：そうですね。思っているけど・(点)・(点)・(点)・(点)、ですね。

小越先生：管理栄養士ということだと、前回、管理栄養士国家



↑ こういう雰囲気です。しかし、学生達の名前は知りません。全員の名前を聞いたのですが、もう、忘れたような気がします。写真もたくさん撮ったのですが、プライバシーの問題があるので、顔はぼかさなくてはなりません。黒で隠すのは雰囲気が悪くなります。そこで、顔だけをぼかす方法を勉強しました。かなりうまくいったと思います。世の中、いろいろ難しい！この写真の雰囲気、私が、いかにたくさん食べたのか、そして、学生さん達といろいろ話ができたとをわかっていただければ十分です。



↑ 千里金蘭大学栄養学の先生達です。初めてじゃないかなあ、このゼン先生の栄養管理講座に出させていただいたのは。この後、私だけが学生さん達に挨拶をさせられました（私だけが自己紹介してなかった）。「この大学の栄養学の先生達はみんな優しい。優しくないのはこの私だけ。みなさんが、病院で働くようになった時、恐ろしくて話にくい、その外科医です。」と自己紹介しました。田路先生が、見かけは怖そうだけど、本当は優しいので、とフォローしてくださいました。でも、本当に怖い外科医ですよ。



↑ 千里金蘭大学はきれいに管理されています。これは 4 月初めの頃の花です。これを管理してくれていたおじさんが定年で辞められました。せっせと花を管理して、掃除もしてくれていたこと、学生達は知らないだろうな。ありがとうございました。



↑ 4 月 28 日の千里金蘭大学です。もうサツキが咲き始めています。花も 4 月の最初に比べると盛んになってきています。こういう雰囲気を気にするようになったのも、古希のじいさんになったからでしょうかね。

試験を話題にしたが、あれからどうなった？

ゼン先生：あれからですか。リーダーズなんかで一緒に活動している同志だと私が思っている全国の管理栄養士に意見を求めたんです。約150人に、ゼン先生の栄養管理講座を読んで欲しい、どう思うか、意見が欲しい、というメールを送ったんです。

小越先生：面白い。どういう意見が多かったんだ？

ゼン先生：反響は非常に小さかったと思います。

小越先生：返信が少なかったのか？

ゼン先生：はい。返信してくれたのは14名だけでした。

小越先生：1割もないのか。

ゼン先生：はい。かなりがっかりしています。管理栄養士の国家試験には問題がある、合格率が低すぎる、という意見に対して、どう考えているのかを知りたかったんですが。これではわかりません。

小越先生：そうだな、どうなんだろう。

ゼン先生：嫌な表現かもしれませんが、不合格になった人は勉強が足りないんだから仕方ない、でしょうか。試験のレベルを下げて、出来の悪い人が管理栄養士になるほうが困っている人もいるかもしれません。しかし、他の職種に比べて、管理栄養士の国家試験合格率は低すぎる、おかしい、と思わないのでしょうか。

小越先生：そうだけだな。しかし、その返信してくれた14人はどういう意見だったんだ？

ゼン先生：いろいろ考えて真剣な意見を返信してくれました。

小越先生：どんな内容なんだ？

ゼン先生：多くが「なるほど、同感」でした。「管理栄養士の国家試験合格率の低さに言及してくれる医師がいることに驚きつつうれしく思った」「よく声をあげてくださった」という意見もありました。

小越先生：なるほど。

ゼン先生：「管理栄養士の国家試験の合格率は低いもの、それが当然だと思っていたけど、他の職種に比べて非常に低いことを始めて知って、問題だと思った」という意見もありましたが、逆に、「合格率が高くなるようにすると管理栄養士のレベルが下がる」「大学でふつうに勉強すれば合格できるレベルだ」という意見も。「確かに、栄養士課程を終えてからの受験生は大変だし、不合格になって栄養士として働き始めた人が再受験する時は、仕事と勉強の両立で大変なのは間違いない。でも、もう少し合格率が低いと、管理栄養士になりたいと思う人が増えない。諦める。現に、病院管理栄養士になりたいという人が少なくて困っている。せっかく、病棟配置という方式が広まりつつあって、管理栄養士のステータスも上がってきているのに。」という意見もありました。

小越先生：いろいろな意見があるんだなあ。

ゼン先生：ほぼ無試験で入学できて、定員割れになっている大



3. A地域とB地域における年齢3区分別人口構成割合(表)に関する記述である。最も適当なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 年少人口の年齢は、0～18歳である。
- (2) A地域の年少人口指数は、B地域より低い。
- (3) A地域の従属人口指数は、B地域より低い。
- (4) A地域の老年人口割合は、年齢調整によりB地域と等しくなる。
- (5) A地域の老年化指数は、40.0である。

表 A地域とB地域における年齢3区分別人口構成割合(%)

地域	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口
A	100.0	12.5	62.5	25.0
B	100.0	10.0	60.0	30.0

↑ そもそも用語がわからない。年少人口とは0～14歳の人口です。年少人口指数は年少人口を生産年齢人口で割って100を掛けます。従属人口指数は従属人口(年少人口+老年人口)を生産年齢人口で割って100を掛けます。年齢調整って何？老年化指数は老年人口を年少人口で割って100を掛けます。知らないことばかりです。

17. ヒトの細胞に関する記述である。最も適当なのはどれか。1つ選べ。

- (1) ミトコンドリアは、ミトコンドリア独自のDNAをもつ。
- (2) ゴルジ体では、遺伝情報の翻訳が行われる。
- (3) リソソームは、たんぱく質の合成を行う。
- (4) 脂質二重膜は、リン脂質の疎水性部分が外側にある。
- (5) 細胞周期は、G1期→M期→G2期→S期の順に進行する。

↑ 生化学の問題かなあ。もう細かいことは忘れています。管理栄養士さんは生化学も強いのですよね。もともと、栄養学は生化学者が始めたのですから。佐伯矩先生はもともと生化学者でした。

学も多くなっているの、学生の質が落ちてきているのもその要因だとの意見もありました。しかし、今後、国家試験合格率が低いから、という理由で管理栄養士という職業を選ぶ学生がさらに減るかもしれない、という意見も。

小越先生：先のことを考えるとそれも困るなあ。

ゼン先生：だから、この国家試験合格率の問題をきっかけに、いろいろ考えたいと思ったんですが、返信が少なかったので、できません。私自身はかなりがっかりしているんです。

小越先生：まあ、そう深刻に受け止めないほうがいいぞ。忙しいからかもしれないし、どう返事していいか困っているからかもしれない。ゼン先生の栄養管理講座を読むのにも時間がかかるからな。

ゼン先生：しかし、大事な問題だと思っただけのことなんですけど・・・。

小越先生：もう止めよう、この話は。そのうち、返信があるかもしれないじゃないか。しかし、管理栄養士の国家試験問題って、そんなに難しいのか？

ゼン先生：難しいと思います。問題としても良くないものもあるし、こんなことを聞くのか、という問題もあると、私は思っています。とにかく範囲が広いんです。「社会・環境と健康」「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」「食べ物と健康」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「応用力試験」の10領域です。

小越先生：ものすごく広い範囲だなあ。こりゃ大変だ。この領域の名称を聞いただけでも大変だと思う。

ゼン先生：でしょう？しかも、それぞれの問題は、結構、細かい内容を問うているんです。

小越先生：例えば、どんな問題？

ゼン先生：どの問題に文句をいいますかねえ。

小越先生：文句じゃないだろう。解析・評価してみる、だろう。

ゼン先生：確かに、そうですね。それじゃあ、一緒に解析して評価してみましょうか。

小越先生：そうだな。栄養管理に詳しい外科医として、だな。

ゼン先生：①は「社会・環境と健康」の問題です。どうですか？

小越先生：管理栄養士さんは、みんな、これを理解しているんだな。出題されているんだから。オレはさっぱりわからない。偉いなあ。

ゼン先生：よかった、先生もわからないんですね。もちろん、私もさっぱりわかりません。

小越先生：「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」にはどんな問題が出題されているんだ？

ゼン先生：26問ですが、どれを選びましょうか。

小越先生：1番最初の問題でいいよ。

ゼン先生：②生化学の問題です。どうですか？

小越先生：うううん、難しい。管理栄養士さんは偉い！もう一問、見せてくれ。

ゼン先生：③感染症に関する記述です。

42. 感染症に関する記述である。最も適当なのはどれか。1つ選べ。③

- (1) 不顕性感染は、病原性の低い病原体による感染をいう。
- (2) E型肝炎は、イノシシ肉の生食で起こる。
- (3) デング熱は、新興感染症である。
- (4) オウム病の病原体は、リケッチアである。
- (5) 梅毒の病原体は、クラミジアである。

↑ この問題は、E型肝炎に注目して、以前のこのゼン先生の栄養管理講座で取り上げたので、簡単です。しかし、E型肝炎は知らない人が多いと思います。もちろん、医師も、です。

81. 20歳、男性 身長160 cm、体重60 kg、BMI 23.4 kg/m²、基礎代謝量0.9 kcal/kg/時、安静時代謝量1.0 kcal/kg/時、30分間の運動によるエネルギー消費量を測定したところ、150 kcalであった。この時のメッツ(METs)として、最も適当なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 2.5
- (2) 2.8
- (3) 5.0
- (4) 5.6
- (5) 6.4

↑ METsの計算です。150kcal÷30kcalと計算して5.0です。30分間の安静時エネルギー消費量が「1.0kcal/kg/時×60kg×0.5時間」と計算して30kcalですから、です。なんか、余計な数字を出して、わざと計算を迷わせているように思うのですが。

82. 栄養アセスメントに関する記述である。最も適当なのはどれか。1つ選べ。⑤

- (1) 生体電気インピーダンス(BIA)法は、脂肪組織が除脂肪組織より電気を通しやすいことを利用している。
- (2) 上腕三頭筋皮下脂肪厚は、対象者の利き腕で計測する。
- (3) 尿中3-メチルヒスチジン排泄量は、骨格筋量の評価指標として用いられる。
- (4) レチノール結合たんぱく質は、アルブミンに比べ長期間の栄養状態を反映する。
- (5) 上腕周囲長は、糖質代謝の評価指標として用いられる。

↑ 難しいのかもしれませんが、ほとんど使わない「尿中3-メチルヒスチジン排泄量」を正解にしなくてもいいと思うんですけど。

97. 暑熱環境下における生理的変化に関する記述である。最も適当なのはどれか。1つ選べ。⑥

- (1) 皮膚血流量は、減少する。
- (2) 皮膚の血管は、収縮する。
- (3) 基礎代謝量は、増加する。
- (4) アルドステロン分泌量は、減少する。
- (5) バソプレシン分泌量は、増加する。

↑ アルドステロンとバソプレシンの働き、知っていますか？私は講義で教えているから知っています。これは常識ですか？

小越先生：これはわかる。E 型肝炎だ。以前、E 型肝炎が管理栄養士国家試験に出ていると、君が話題にしたじゃないか。

ゼン先生：そうですね。でも、デング熱って、先生、診たことないでしょう？

小越先生：無いなあ。オウム病も診たことない。梅毒は知っているけどな。次の「食べ物と健康」の問題はパス。どうせ、わからない。専門外だから。

ゼン先生：もちろん、私もです。「基礎栄養学」はどうですか？

小越先生：④運動のエネルギー消費量の問題か。METs の計算もできないといけないのか、管理栄養士は。大変だなあ。

ゼン先生：⑤これは「応用栄養学」の問題です。

小越先生：正解は 3 番だな。しかし、「尿中 3-メチルヒスチジン排泄量」なんて、臨床では使わないだろう。

ゼン先生：そうですね。必要ないとは言いませんが、知っておくべき知識ではないと思います。栄養に詳しい人でも、知っている人は少ないんじゃないでしょうか。⑥これが「応用栄養学」の一番後ろの問題です。どうですか？

小越先生：ナトリウムと水分の問題だろうが・・・基礎代謝量は減るのか？正解は、多分、5 番だな。難しい。

ゼン先生：次は「栄養教育論」ですが。

小越先生：どうせ、わからないから、パス！

ゼン先生：「臨床栄養学」の最初の問題は、⑦診療報酬と介護報酬の算定に関する問題です。

小越先生：これも難しい。

ゼン先生：⑧最後はメープルシロップ尿症の問題ですが。

小越先生：ほとんど診ることがない疾患だけど、まあ、試験問題のための知識だな。現場ではほぼ必要がない知識なんじゃないかなあ。試験のためだけの知識だよ。

ゼン先生：これは臨床医学で教えている内容なんです。「先天性代謝異常」の項で、フェニルケトン尿症、メープルシロップ尿症、糖原病、ガラクトース血症、ホモシスチン尿症、ウィルソン病、として教えます。だから・・・役に立たないかもしれないけど、試験問題としては「1 問、いただき！」かもしれません。

小越先生：ハハハハハ、だな。

ゼン先生：次の「公衆栄養学」は、ほとんど理解不能だと思いますが。

小越先生：どんな問題が出ているんだ？

ゼン先生：⑨健康日本 21 って知ってます？

小越先生：知らんなあ。公衆栄養としては、当然、知っておくべき知識なんだろうが。

ゼン先生：「給食経営管理論」は、全く理解できないから飛ばしましょう。

小越先生：評価自体、できるはずがない。

ゼン先生：「応用力試験」もむちゃくちゃ難しいんです。

小越先生：なるほどなあ。試験に出ている知識がどこまで必要かはわからないけど、とにかく、ものすごい知識が必要なんだ

111. 診療報酬および介護報酬と算定可能な対象者の組合せである。最も適当なのはどれか、1つ選べ。

- (1) 入院栄養食事 — 血中ヘモグロビン濃度 11 g/dL 指導料 の鉄欠乏性貧血患者 ⑦
- (2) 摂食障害入院 — BMI 18.0 kg/m² の者 医療管理加算
- (3) 栄養改善加算 — 食事摂取量が 50% の者
- (4) 経口維持加算 — 誤嚥なく経口摂取できている者
- (5) 再入所時栄養 — 他の介護保険施設に転所した後、再入所した者 連携加算

↑ 診療報酬、介護報酬の算定についても管理栄養士は知っておかなくてはならないのでしょうか。その基準も。

136. メープルシロップ尿症患者の病態および栄養管理に関する記述である。最も適当なのはどれか、1つ選べ。

- (1) アルカローシスを呈する。 ⑧
- (2) 血中ロイシン値は高値を示す。
- (3) エネルギー摂取量を制限する。
- (4) 乳糖除去ミルクを使用する。
- (5) 尿中ホモシスチン排泄量をモニタリングする。

↑ ふつうは診ることがほとんどない疾患ですが、試験問題としては出しやすいのでしょうか。BCAA 代謝の問題だと知っていれば、簡単でしょうが。

142. 健康日本 21（第二次）の目標のうち、最終評価で「悪化している」と判定された項目である。最も適当なのはどれか、1つ選べ。 ⑨

- (1) 肥満傾向にある子どもの割合の減少
- (2) 低栄養傾向（BMI 20 以下）の高齢者の割合の増加の抑制
- (3) 20 歳代女性のやせの者の割合の減少
- (4) 食塩摂取量の減少
- (5) 共食の増加（食事を 1 人で食べる子どもの割合の減少）

↑ そもそも健康日本 21 を知りません。管理栄養士さんは、みなさん、知っているのですか？さらに、その内容、目標、達成状況も知っているのでしょうか。

なあ。感心したよ。こんな難しい試験に合格した管理栄養士さんは偉い！すごいよ。

ゼン先生：確かに、すごいですよね。しかし、どの知識も必要だと言えば必要かもしれませんが、管理栄養士になってから必要な知識かどうか、その判断は大事だと思います。

小越先生：そうだな。例えば、今の医師国家試験はどうなっているのかわからないけど、オレ達は外科医になるつもりだったから、外科医として必要な知識以外はなんとなく力が入らなかったな、正直な気持ち。今の国家試験とはかなり違っているだろうけど。

ゼン先生：本当ですね。まあ、医療に関連した知識で、必要ない、

というものはないでしょうが。

小越先生：しかし、これらの知識がすべての管理栄養士に必要なんだろうか。それぞれの領域に専門的な知識は、管理栄養士になってから、その職場で勉強すればいいんじゃないかなあ。国家試験にここまでの知識が必要なんだろうか。

ゼン先生：本当、私もそう思うんです。この領域でもこれだけは知っておくべきだという内容にしておいて、専門的な知識は、必要になってからでもいいんじゃないかと思うんですが。管理栄養士さん達も、本当はそう思っているんじゃないでしょうか。口には出さないけど。

小越先生：オレ達はそう思うけど、管理栄養士さんたちの考えは違うのかもしれないな。

ゼン先生：この話題、余計なことを言っていると思われるのかもしれないね。

小越先生：そうだよ。部外者が余計なことを言っていると思っている管理栄養士もいるんじゃないか？

ゼン先生：しかし、国家試験合格率の、他の職種との差については、もっと考えてもいいんじゃないかと思いますが。

小越先生：オレ達はそう思うが、管理栄養士達はそうは思っていないんじゃないか？君の問いかけにほとんど反応がないのは、そういうことかもしれないぞ。これ以上言うと嫌われるぞ。

ゼン先生：残念ですが、そうなんでしょう。

小越先生：そうだよ、余計なことなんだよ。だから、この話はここまでにしよう。

ゼン先生：そうしましょう。とにかく、私は学生達に、がんばれ、がんばれ、と応援します。それしかできませんが。

小越先生：その通りだ。がんばれ、がんばれ、だよ。学生達に「応援している、**がんばれ！**」って言いなさいよ。



↑ 私は、講義の中で、愛媛県伊予市にある「栄養寺」の話をして紹介しています。栄養士のメッカだから、是非、行きなさい、と言っています。4年生の伊東さんが、実際に行って、写真を送ってくれました。本当にうれしかった！伊東さん、ありがとう。ということで、漢字「栄養」の本をプレゼントすることにしました。

国家試験合格率 2025年				
職種	全体	新卒	既卒	(%)
医師	92.3	95	59	
歯科医	70.3	84	44.9	
看護師	90.1	95.9	44.9	
診療放射線技師	84.7	92.2	45.1	
臨床検査技師	84.6	94	40.4	
理学療法士	89.6	95.2	31.2	
作業療法士	85.8	92.5	37.8	
薬剤師	68.85	84.96	43.94	48.1*1
言語聴覚士	72.9			
管理栄養士	48.1	80.1	11.1	11.7*2

*1: 旧4年制卒、受験資格認定者

*2: 栄養士養成課程卒業、受験資格認定者

↑ 国家試験合格率のデータは、もう1回出さないといけませんね。これを見て、管理栄養士さん達はなんとも思わないのかなあ、と思う私が変なのかもしれません。部外者が余計なことを言うな！なんでしょう。

【今回のまとめ】

- 4月ですが、暑くなったり寒くなったり、変な気候です。四季は無くなりかけです。でも、桜は咲きました。春です。しかし、一気に初夏へ進んでいます。
- 4月はどこへも出かけることなく、家と大学と病院の往復だけでした。まあ、この歳、この立場になると、これがふつうなのでしょう。でも、いろいろ、私なりの学術活動は続けています。
- 前回のこの記事に対する意見を、全国の約150人の管理栄養士さんに求めました。意見をくださった管理栄養士さんは、わずか14名でした。残念、かなりがっかり、でした。
- 管理栄養士の国家試験問題、いくつか提示してみました。どれも難しい。私が医師としても栄養に関する基本的知識がないからでしょう。
- これらの知識って必要なの？と思う内容も多かったのですが、部外者が余計なことを言っていると思われるのかもしれない。
- 私にできることは、学生達に、がんばって勉強しなさいよ、応援しているから、ということだけですかねえ。